

令和5年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第7号 (10月予報)

○向こう1か月の天候の見通し (令和5年9月21日発表：沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○10月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			9月の発生量 (平年比)	9月からの 増減	10月の発生量 (平年比)	
カンショ	①	イモキバガ (イモコガ)	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
	②	ナカジロシタバ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
さとらきび	①	メイチュウ類 (カンシャシ ンクイハマキ・イネヨト ウ) (夏植え)	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
(タカ ンカ キツ)	①	かいよう病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	②	黒点病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
マンガ	①	ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○10月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			9月の発生量 (平年比)	9月からの 増減	10月の発生量 (平年比)	
小ギク (年未出荷用)	①	黒斑・褐斑病	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	②	アザミウマ類	やや多	↑	並	平年の発生量の推移(↑)
	③	アブラムシ類	並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)
	④	チョウ目幼虫	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	⑤	カスミカメ類	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
カンショ	トリバ類	幼虫が葉を食害する。例年より被害葉率が高く、多くのほ場で発生が見られた。発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、早期防除に努める。
（タカシ）	サビダニ類	一部のほ場でサビダニ類による被害が見られた。肉眼では発見しにくいので、被害が見られたほ場では、速やかに防除を行う。また例年発生の多いほ場では、予防的に薬剤を散布する。
	カイガラムシ類	一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。果実に発生すると、排泄された甘露にすす病が発生したり、定着した部分が着色不良、肥大阻害を引き起こすことで、外観が損なわれるため商品価値を低下させる。低密度に抑えるため、早期発見・防除に努める。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	ドクガ類・ナカジロフサヤガ・ハマキガ類、シャクガ類	一部施設でコシロモンドクガ、ナカジロフサヤガ、オオセンダンヒメハマキの発生が見られた。ガ類幼虫は新葉を食害するので、施設内を見回り、早期発見・防除に努める。
小ギク	<i>Gibellulopsis chrysanthemi</i> による新病害	昨年発生（年未用小ギク）の新病害である。本病は葉にえそ斑紋のような症状を呈し、症状が進行すると下葉が枯れ上がり商品価値を著しく低下させる。今月の調査での発生ほ場率は44.4%であった。防除対策としては健全苗を植え付ける。かん水の時に土が跳ね上がらないように注意する。罹病葉は伝染源となるので速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。

令和5年度 宮古群島 病害虫発生予報 第7号（10月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和5年9月21日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○10月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		9月の発生量 （平年比）	9月からの 増減	10月の発生量 （平年比）	
さとらきび	① メイチュウ類（カンシャシ ンクイハマキ・イネヨト ウ）（夏植え）	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
マンガー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。
 ●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
 ●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値
 ※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。
 ※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンガー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるので、ほ場外へ持ち出し処分する。
	ドクガ類・ナカジロフサヤガ ・ハマキガ類、シャクガ類	一部調査施設でナカジロフサヤガの発生が見られた。 ガ類幼虫は新葉を食害するので、施設内を見回り、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。 せん定枝は発生源となるので、ほ場外へ持ち出し処分するとともに、早期発見・防除に努める。

令和5年度 八重山群島 病害虫発生予報 第7号 (10月予報)

○向こう1か月の天候の見通し (令和5年9月21日発表：沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○10月の発生予報 (八重山群島)

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			9月の発生量 (平年比)	9月からの 増減	10月の発生量 (平年比)	
水 稲 (2 期)	①	葉いもち病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	②	セジロウンカ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	③	斑点米カメムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	④	コブノメイガ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
さ と う き び	①	メイチュウ類 (カンシャシ ンクイハマキ・イネヨト ウ) (夏植え)	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
マ ン ゴ ー	①	ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
オ ク ラ	①	うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	②	フタテンミドリヒメヨコバ イ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予報の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	ドクガ類・ナカジロフサヤガ ・ハマキガ類、シヤクガ類	一部施設でコシロモンドクガ、ナカジロフサヤガの発生が見られた。 ガ類幼虫は新葉を食害するので、施設内を見回り、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	せん定枝は発生源となるので、施設外へ持ち出し処分するとともに、早期発見・防除に努める。
オクラ	カタツムリ類	切り戻し後萌芽した株は、草丈が低く葉が柔らかいため加害を受けやすいので、発見次第捕殺に努める。